

東日本大震災に学んだ「熊本地震木造応急仮設住宅」 被災者ファーストを掲げた居住性能により、今も約8割が利活用 デコスファイバーにより断熱だけでなく防音効果で生活音のストレスも軽減

株式会社デコス（本社：山口県下関市、代表取締役：安成信次）が製造・販売・施工を手掛ける新聞紙を主原料とするセルロースファイバー断熱材「デコスファイバー」は、2016年の熊本地震において木造仮設住宅建設にあたり、190棟563戸において採用されました。地震からおよそ7年が経ち、来年3月に県は仮設住宅の提供終了を予定していますが、復興までには長い道のりを要しています。被災者ファーストを掲げた木造応急仮設住宅にあたっては、東日本大震災の教訓に学び、断熱や防音をはじめとする高い居住性能から現在もその約8割（令和5年1月現在）が市営住宅などに利活用されています。



熊本地震木造応急仮設住宅 563戸においてデコスファイバーが採用された（写真は阿蘇市黒川仮設住宅）

■東日本大震災の仮設住宅に学び居住環境を重視した木造応急仮設住宅 恒久住宅への転用も視野に、断熱材には高性能なデコスファイバーを採用

東日本大震災の際には入居後の仮設住宅において、結露や厳しい寒さから入居者の体調に影響を及ぼす事態となり、断熱追加工事が急ぎ行われました。この時の教訓から、仮設住宅における居住環境の重要性が強く認識されました。2016年4月に起こった熊本地震でもその教訓は生かされ、自治体からはプレハブ住宅とあわせ、居住性能の高い木造仮設住宅の要望が上がりました。熊本県は盆地特有の夏蒸し暑く冬寒い気候となっていたことと、もともと木造住宅が多い地域であり、木造であれば入居者にも落ち着いて過ごしてもらえるだろうという狙いもありました。また、復興まで長らく懸念から耐久性や余震に備えた耐震性も確保する必要がありました。



室内は温度差も少なく快適（サーモカメラ）

■居住性能を重視した結果、木造応急仮設住宅は現在も 8 割弱が利活用されている

通常、仮設住宅の入居期限は原則 2 年となっておりますが、再建が見通せない被災者のため、延長を繰り返す長い期間被災者が居住するケースも少なくありません。来年 3 月には県内で唯一残っていた「木山仮設団地」も閉鎖される方向ですが、長きにわたり被災者が使用していました。プレハブ型で老朽化が進んでいることから、県や町は防犯面も考慮して閉鎖が検討されていました。

一方、**木造応急仮設住宅にあたっては、当初から恒久住宅への転用も視野にいれてきたことから、今年 1 月時点で 79%が利活用されている状況です。**

○木造仮設住宅の建設戸数と利活用戸数（熊本市を除く）

建設戸数	683戸
うち、利活用戸数	541戸
利活用率	79%

○木造仮設住宅の利活用用途

	市町村有住宅 (被災地の生活再建住宅)	市町村有住宅以外
現地利活用	300戸	-
移転利活用	128戸	113戸
合計	428戸	113戸

■夏は涼しく冬暖かい温熱環境に加え、仮設住宅でのストレスになる音問題も解決 快適な住環境を目指しデコスファイバーによる高い断熱性を備えた木造仮設住宅

木造応急仮設住宅は、入居者からその高い居住性について評価を受けました。特に夏、デコスを採用した住宅にする方からはエアコンの設定温度 28 度でも快適だったとの声をいただきましたが、デコスを使用していない住宅では 25 度に設定しても暑かった、との声もありました。**プレハブ住宅では暑さ寒さに加え、生活音がストレスになるケースも多く、クレームもありましたが、デコスはその吸音性から生活音にストレスを感じることなく過ごせたという声も寄せられています。**

木造応急仮設住宅での採用に加え、復興住宅でもデコスファイバーは採用され、更に 2020 年の熊本豪雨災害でも、612 戸の木造応急仮設住宅に採用されました。

当社の親会社で山口県を中心に活動する株式会社安成工務店（本社：山口県下関市、代表取締役：安成信次）では、この経験から、山口県においても災害時の木造応急仮設住宅の必要性を痛感しました。当時、山口県ではプレハブメーカーとの協定のみだったため、県と協議の上、2017 年には代表の安成信次が会長を務める（一社）全国木造建設事業協会山口県協会と木造応急仮設建設に関する協定書を締結しています。

今後も各地でさまざまな災害が起こることも想定されます。**被災者の方々にはそんな時にせめて冬暖かく、夏涼しい環境を提供できるよう、デコスファイバーの応急仮設住宅への採用を全国に広げるよう努力してまいります。**

デコスファイバーとは…

新聞紙を主原料とする綿状の木質繊維系断熱材です。粉碎した新聞紙にホウ酸・ホウ砂、はっ水材を加えて混ぜて作られ、断熱性だけでなく、調湿性・吸音性・防火性などにも優れているのが特長です。石油燃料を使用せず、電気エネルギーのみを用いて製造され、熱（溶解・乾燥）、水（洗浄・冷却）なども一切使用しないため、**他の断熱材に比べ製造時のエネルギー消費量が圧倒的に低いエコでクリーンな断熱材です。海外では一般的に使用され、国内ではまだそのシェアは低いものの、過去 20 年で 10 倍にも伸びており、脱炭素・省エネの観点から注目を集めています。**



新聞紙を主原料とするデコファイバー

<会社概要>

企業名 : 株式会社デコス
代表者 : 代表取締役 安成信次
本社所在地 : 山口県下関市菊川町田部 155-7
設立 : 1974年8月30日
資本金 : 30,000,000円
従業員数 : 31名
事業内容 : 断熱材製造販売・施工、FC事業
ホームページ : <https://www.decos.co.jp/>

【報道関係者 お問い合わせ】

デコス 広報事務局

担当 : 川崎 (090-2401-4914) 杉村 (070-1389-0175)

E-mail : pr@netamoto.co.jp TEL : 03-5411-0066 FAX : 03-3401-7788